

令和6（2024）年度 第2回子ども・子育て会議 議事録

- 日 時 令和6（2024）年10月28日（月） 14：00～16：00
- 会 場 健康管理センター3階 集団指導室
- 出席委員 植木会長、野中副会長、金子委員、遠藤委員、関沢委員、品田委員、小林委員、
村井委員、根立委員、上杉委員 【10人】
- 欠席委員 高橋委員、石川委員 【2人】
- 事務局 中村子ども未来部長
（子育て支援課）田中課長、小池課長代理、石橋課長代理、曾田係長、重野係長
山崎主任、丸山主任
（保育課）笹川課長、細山課長代理、権田係長
（子どもの発達支援課）小林課長、小山課長代理
（福祉課）村田課長、飛田主事 【15人】

1 開会 司会：事務局

2 挨拶 会長

本日の会議は、当日の資料配付となるため、この場で事務局から説明を受け、後日、ペーパーで意見を提出していただくという手続きで進めていきたいと考えている。本日の説明でお気づきの点があれば、発言いただきたい。

3 議事 司会進行：会長

(1) 第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画骨子案に係る意見等に対する回答について

別紙1「第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画骨子案に対する検討と回答について」
事務局より説明

<質問・意見等なし>

事務局 委員からの意見を踏まえた上で、事務局提案の骨子案2を基に計画の策定を進める。

(2) 第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画素案について

資料「第三期柏崎市子ども・子育て支援事業計画 素案」

- ・素案に係る意見聴取の方法について
- ・計画の第1章から6章までの構成等について
事務局より説明

- ・第1章「計画策定の概要」のポイントについて、事務局より説明

委 員 約150ページに渡る資料となるため、説明いただいたポイントを、資料として

配付すると確認しやすい。次回以降、可能であればお願いしたい。

事務局

今後、概要版を作成予定である。わかりやすい資料を用意したい。

- ・第2章「子ども・子育てを取り巻く現状」について
事務局より説明

<質問・意見等なし>

- ・第3章「計画の基本的な考え方」から第4章「子ども・子育て支援に係る目標事業量の設定」について
事務局より説明

<質問・意見等なし>

- ・第5章「施策の展開」について
事務局より説明

<質問・意見等なし>

- ・第6章「計画の推進に向けて」について
事務局より説明

<質問・意見等なし>

- ・全体を通して

会長

「こども」と「子ども」の表記について、再度説明してほしい。

事務局

目次2ページ目の下部に注釈を載せているが、「こども」と「子ども」表記については、こども基本法、こども大綱、こども・若者に関する呼称と年齢区分は、法律等によって様々な使われ方をしている。本計画においても、「こども」の表記は、こども基本法に倣い、原則として「子ども」ではなく「こども」を用いている。

ただし、子ども・子育て支援法における「子ども」など、法令に根拠がある語を用いる場合や、既存の予算事業・取組や組織名などの固有名詞として用いる場合は「子ども」を用いるなど、事業によって併記していることを確認いただきたい。

会長

国の新しい法律は、「こども」表記であり、こども基本法の中に、「こども」の定義が載っている。それは、年齢で区分せず、発達の過程にあるものという非常に抽象的な表記で、20歳代の若者も含まれるといった概念となっている。そのため、基本的には「こども」を採用したいということなのだが、少し前の、子ども・子育て支援法などは「子ども」と漢字で表記されているため、このような固有名詞等に関しては「子ども」表記がされている。混在していて分かりにくいなどの意見があれば聞かせてほしい。

<意見等なし>

委 員

第2章「5 子どもたちの声」について、アンケートの設問項目は、柏崎市独自のもののなのか、それとも、各自治体で共通のものなのか。

事 務 局

設問項目の一部は、第2章「6 国の目標との対比」にある、こども大綱における「こどもまんなか社会」の実現に向けた数値目標の基となっている項目をベースにアンケートを実施した。この他の項目は柏崎市独自のものであり、本市では初めて（子どもアンケートを）実施したものとなる。当時、他自治体のアンケートはあまり確認できなかったが、東京都の各区などの規模の大きい自治体では同様のアンケートを実施していたことから参考にした。

委 員

アンケートを実施していない自治体はどのように質の高い教育など福祉環境等を分析しているのか。

事 務 局

他自治体の分析方法は把握していないが、努力義務とされているこども計画の策定に取り組んでいる自治体が大半だと思う。同時に、子ども・子育て支援法に基づく子ども・子育て支援事業計画においては、国から示されている調査項目がある。本市では、そちらの（ニーズ）調査と、こども計画を見据えた（子どもアンケート）調査の2つの調査を実施した。

委 員

アンケートデータを蓄積していくことにより比較できるようになるので、アンケートを継続し、意見を反映しながら改善していけると良い。

事 務 局

こども基本法等において、こどもの意見を聞くことが重要であると示されている中、柏崎市では、市全体の総合計画等の策定が今後予定されている。

今回は、こどもの意見を聴取するためにこのようなアンケートを実施したが、アンケートのみならず、子どもが集まっている学校などへ出向き、直接話を聞く方法もあるとされているため、今後検討していきたい。

委 員

アンケートの回答率についても、もっと高くなると良いと考える。

会 長

今までは、こどもの居場所作りについて、こどもの意見を聞かずに大人だけで決めてきたという反省点がある。そのため、このようなアンケートやヒアリングを実施したが、そこで集まった声をどのようにフィードバックし、どのように事業に反映していくかといったところまでをセットにして進めてほしい。ヒアリングについては、学校も良いと思うが、児童クラブに通う子どもに支援員がヒアリングしたり、児童館や放課後子ども教室に来る子どもたちに児童厚生員などがヒアリングするなど、子どもが意見しやすい雰囲気の中でヒアリングすることも大事だと思う。

子どもの側に立った工夫を進めていきたいと思うので、委員からのアイデアがあれば意見してほしい。

委 員

柏崎市では、屋内の遊び場のエリア拡大と遊具の更新において、実際に遊ぶ子どもや保護者の意見を聞くことが大切であると考えているが、意見は聴取したか。

事務局

屋内遊び場施設「キッズ・マジック」については、(令和6(2024)年)4月より市営化となり、遊具を更新する。遊具の選定に当たっては、利用者アンケートや、遊具メーカーによるプロポーザルにより提案のあったものを採用している。滑ったり、走ったりとアクションの大きい遊具、ネット遊具など人気があり、ネットトランポリンなども採用する。

委員

第2章「4 アンケート調査から見る子ども・子育ての状況」から見えてきた課題があると思うが、「第3章 計画の基本的な考え方」、「第4章 子ども・子育て支援に係る目標事業量の設定」は、第2章で見えてきた課題を解決するものとして挙げているのか、それとも、現在取り組んでいるもので充足できると考えているのか教えてほしい。

事務局

量の見込みと方策については、国の算定に基づいて数値を算出しており、今後、事業の量をどのように見込み、どのように確保していくかを第4章に示している。(第2章から見えてきた)個別の課題等については、「第5章 施策の展開」につながっていくものと考えている。

委員

例えば、柏崎市を好きだと思えない子どもが一定数いることなどは、これらの方策すべてを実施、展開していくことで解決していけるものとして計画が策定されていると認識して良いのか。

事務局

本計画を策定することで、すべての子どもたちが柏崎市を好きになるかという、ニュアンスとしては少し違うように思うが、子どもやその保護者を含め、柏崎市を住んでもらえるまち、選ばれるまちとなるための施策の一つとして、子ども・子育て支援事業計画があると考えている。

会長

自分の住む柏崎市が好きだという子どもの割合が高くなることが大事であり、それが最終目標になると思う。そのため、5年後に同様のアンケートを取り、柏崎市を「好き」と回答する子どもが現在の割合よりも高くなるように、こどもの居場所や相談窓口の充実、これらの情報発信など具体的な施策が必要になる。これらはこども計画に関する内容になるが、子ども・子育て支援事業計画においても大事な視点となるため、本会議においても確認していくことになると思う。

事務局

柏崎市で生まれ育った子どもたちがこの地域を愛し、そこで健やかに育っていく、そこが我々の最終目標だと考えているので、アンケート調査については、経年比較をし、市としての取り組みに効果があるかを確認しながら、今後も見ていきたいと考えている。

委員

半田地域でこども食堂を開いて7年が経過したが、学校が半田の良い所を質問したところ、「半田地域にはこども食堂がある」と回答した子どもがいた。

他の地域においても、大人が使用していない時間で、子どもたちが自由に遊べるような場やコミュニティを設けて地域で子どもたちを育てることがたくさんできると良いと思う。

・議事終了

4 その他（連絡事項等）

- ・別紙4 ペーパーレス化の推進について（お願い）
- ・報酬について
- ・次回開催予定について

5 閉会 子ども未来部長

本日は、今年度第2回目の会議となり、第三期子ども・子育て支援事業計画の策定に向けての素案作りについて、本来であれば事前に資料を配付し、意見交換をしたいと思っていたが、予想以上の作業ボリュームがあり、事務局側からの説明が主な内容となったことについて、了承いただきたい。

事務局からの説明においては、統計で見る本市の状況や、アンケートから見える子ども・子育て支援の状況、今日の柏崎市の子育てをめぐる各種の状況について、主だったポイントを説明した。（第2章の8では、）柏崎市の子ども・子育て支援における課題のまとめ、（第3章では、）基本理念と計画の基本目標、計画の体系を示している。次の第5章では、施策の展開について示している。

植木会長からは、計画策定のポイントに加え、子どもの意見の吸い上げ、フィードバックの重要性について助言をいただいた。

また、根立委員から要望があったとおり、後日、ポイントをまとめた資料を用意したい。

後日、委員から提出いただく意見等を参考にしながら、子ども・子育て支援事業計画が更に充実したものになるよう、内容を検討していきたいと考えている。

最後に、一人でも多くの方が、この地域での子育てに喜びを感じてもらえるよう、計画作りに向けて、今後とも委員から協力いただきたい。

以上